



写真提供 / 長野県麻績村

芦澤の石積堰堤(麻績村)

芦澤川の石積堰堤(えんてい)は1887年(明治20年)に信濃川上流域の砂流出防止事業の一環として築かれ、現在でも4基が建設当時のままの姿で残っています(写真はそのうちの一つである第4号石積堰堤)。これらの堰堤は野面石を使い「六つ巻」と呼ばれる空石積工法で築かれ、現在も堰堤としての砂防の機能を果たしています。2014年(平成26年)に国の登録有形文化財(建造物)として登録されました。

県内の主な災害(1月)

- 1963年(昭和38年) 三八豪雪(～2月)
- 1980年(昭和55年) 五六豪雪(12～3月)
- 2006年(平成18年) 〇六(一八)豪雪(12～2月)

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県池田町

川會(かはあい)(かわあい) 神社(池田町)

「まんが日本昔話」などでも有名な昔話「小太郎と母龍」の原作となった「泉小太郎」を祀った神社です。小太郎は母である犀龍(さいりゅう)の背に乗り安曇野平から松本平にかけて満々と水をたたえた湖の岩盤を砕き、水を日本海へと流したと言い伝えがあり、想像を絶する大洪水だったかも知れません。龍の伝説がある地方には、水に関する災害が関連することがあります。信州各地には「泉小太郎」伝説が語り継がれています。

県内の主な災害(2月)

- 1934年(昭和9年) 北小谷村大平雪崩災害
- 1945年(昭和20年) 飯山線森宮野原駅積雪深7.85m
- 1961年(昭和36年) 栄村青倉雪崩災害

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県飯田市

お練りまつり（飯田市）

大宮諏訪神社の式年祭礼に合わせて行なわれています。1715年（正徳5年）の未（ひつじ）満水（洪水）の時に、野底川の氾濫によって飯田の町に濁流が流れ込まんとしたとき、住民が神明様に加護を祈願したところ、濁流は流れを変え、町は被災を免れたそうです。このため中断していた祭りを再興し、盛大に奉納するようになりました。祭りには数十の団体が参加し、大名行列や、巨大な獅子舞などが披露されます。

県内の主な災害（3月）

- 1998年（平成10年） 倉下地すべり災害（白馬村）
- 2011年（平成23年） 長野県北部地震（栄村他）

長野県建設部
砂防課紹介



過去の災害に
学ぶページ



長野県河川砂防
情報ステーション



長野県立
歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県上田市

岩鼻（上田市）

上田盆地の西側の奇観です。伝説では、昔は対岸（千曲川を挟んで北側）の塩尻岩鼻と一続きの岩で、上田盆地は一面の湖でした。その湖の西にねずみがはびこり田畑を荒らしたので、唐猫を集めて追わせたそうです。逃げ場を失ったねずみは岩山を食い破り、湖（上田盆地）の水は千曲川となって流れ出し、一帯は陸地となったといわれています。ねずみが岩山を食い破ったことから、付近には「ねずみ」の地名が残っているとされます。

県内の主な災害（4月）

- 1714年（正徳 4年） 小谷地震、岩戸山崩壊
- 1939年（昭和14年） 南小谷村風張山崩落
- 1973年（昭和48年） 飯綱山萩之峰地すべり

長野県建設部
砂防課紹介



過去の災害に
学ぶページ



長野県河川砂防
情報ステーション



長野県立
歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県飯山市

善光寺地震慰霊の黄金石地蔵(飯山市)

1847年(弘化4年)3月24日夜10時ごろ長野市を震源とした推定マグニチュード7.4の善光寺地震は、飯山藩に全壊、焼失3,000軒余、死者1,515名を数える被害をもたらしました。大聖寺の僧が、ある夜に石段を上がろうとした時、目の前に突然白衣の老人が立ちはだかり、「(善光寺)地震で亡くなった我々の霊を慰めて下さい」といってその場から立ち去りました。和尚はその供養のため地蔵堂を建立したという伝説が残っています。

県内の主な災害(5月)

- 1847年(弘化4年) 善光寺地震
- 1911年(明治44年) 稗田山深層崩壊
- 1916年(大正5年) 木崎湖・神城竜巻災害

長野県建設部
砂防課紹介



過去の災害に
学ぶページ



長野県河川砂防
情報ステーション



長野県立
歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県大鹿村

大西公園(大鹿村)

「三六災害」により、大西山が崩落し、大量の崩落土砂は山津波(土石流)となって対岸の家屋に押し寄せました。崩落土砂は小洪川をせき止め決壊した濁流は、なおも下流の集落を呑み込みました。大崩落による死者・行方不明者は42名・家屋の流失40戸にも及びました。大西山の大崩落地を復旧した大西大地に桜を植え、三六災害で亡くなった犠牲者の霊を慰め、村を明るくする志のもと現在の大西公園に至っています。

県内の主な災害(6月)

- 1715年(正徳5年) 未(ひつじ)満水(洪水)
- 1915年(大正4年) 焼岳噴火、大正池形成
- 1961年(昭和36年) 三六災害(大西山崩落)

長野県建設部
砂防課紹介



過去の災害に
学ぶページ



長野県河川砂防
情報ステーション



長野県立
歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



写真提供 / 長野県御代田町

長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会

真楽寺・龍神まつり(御代田町)

真楽寺では毎年7月に龍神伝説ゆかりの地として「甲賀三郎龍伝説」による、甲賀三郎が龍の姿となって地底から戻ってきた場所としての、伝説の巨龍が舞う「龍神まつり」が開催されます。

この真楽寺には、用明天皇の時代に浅間山噴火の鎮静を祈願するために勅願により開かれたのが始まりとの伝承があります。伝承によると長子である聖徳太子の勧めで用明天皇は、浅間山の噴火を鎮めるため、噴火鎮静の祈禱を行ったとされています。

県内の主な災害(7月)

- 1985年(昭和60年) 地附山地すべり(長野市)
- 1995年(平成7年) 豪雨災害(小谷村他)
- 2006年(平成18年) 豪雨災害(岡谷市他)
- 2020年(令和2年) 豪雨災害(飯田市、長野市他)

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館



写真提供 / 長野県山ノ内町

長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会

大蛇祭り(山ノ内町)

志賀高原の大沼池に住む、伝説の大蛇にまつわる催しです。若者がボートに乗り大蛇を操って、湖面を進みます。

中野城主の策略に怒った大蛇が、暴風雨を起こし、城を流そうとしました。濁流により、中野一帯は壊滅状態になったのです。夜間瀬川の洪水がいかに過酷であったかを物語る伝説です。現在では無病息災を祈願する催しとして行われています。

県内の主な災害(8月)

- 1783年(天明3年) 浅間山大噴火
- 1911年(明治44年) 稗田山崩壊(小谷村)
- 1965年(昭和40年) 松代群発地震(以後5年)
- 2021年(令和3年) 岡谷市川岸東土石流災害

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館





下馬沢川土石流災害（茅野市）

令和3年9月5日の15時から翌1時にかけて、総雨量159mm、最大時間雨量63mmの豪雨がありました。この雨により、茅野市下馬沢川流域では、断続的に土石流が発生し、多数の家屋被害が生じるとともに、高部地区を横断する県道では長期の通行止めを余儀なくされました。

今回の土石流災害では、過去の被災経験や毎年実施している避難訓練の成果により、住民の多くが早めに避難したことから、人的被害が生じませんでした。

県内の主な災害（9月）

- 1959年（昭和34年） 伊勢湾台風災害
- 1984年（昭和59年） 長野県西部地震、御岳崩れ
- 2014年（平成26年） 御嶽山噴火災害

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館



長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



戸隠神社（長野市）

戸隠山は山自体が水を恵む山として信仰された「水分（みくまり）の山」であり、戸隠神社は水神とされる龍神を祀っている神社です。戸隠神社には九頭龍社があり、九頭龍とは巨大な龍のことで、洪水を防ぎ、水路を変えることもできたとされています。

千曲川の洪水の時に、九頭龍権現のお礼が流れてきて瀬が変わったなどの言い伝えが、佐久地方などに数多く残っています。

県内の主な災害（10月）

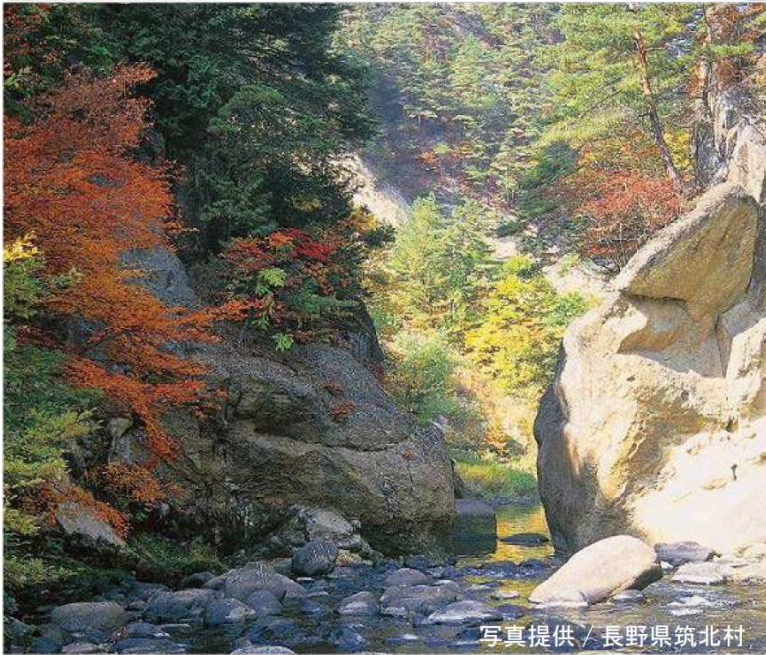
- 1945年（昭和20年） 千曲川洪水（～11日）
- 1976年（昭和51年） 奈良尾地すべり（信州新町）
- 2019年（令和元年） 令和元年東日本台風災害

長野県建設部 過去の災害に 長野県河川砂防 長野県立
砂防課紹介 学ぶページ 情報ステーション 歴史館



写真提供 / 長野県建設部砂防課

長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会



差切峡公園(竜王権現像) (筑北村)

昔、長雨で修那羅にあった大池が崩れて主の大蛇が流され、差切峡のドの淵(ぶち)に住み着いたそうです。ある日、狩人が大蛇の頭を撃ち抜き殺してしまったところ、ぶちの周辺から無数の蛇が現れ人々を襲うようになりました。生津迦(しょうづか)様という仙人が、洞穴に蛇を竜王大権現として祭ったところ、蛇の姿は消えたといわれています。蛇は、洪水、土石流の象徴とされるため、水害、土砂災害が多発したことを示しています。

県内の主な災害 (11月)

- 1876年 (明治 9年) 北城村杓子沢雪崩災害
- 1918年 (大正 7年) 大町地震
- 2014年 (平成26年) 長野県北部地震 (神城断層地震)

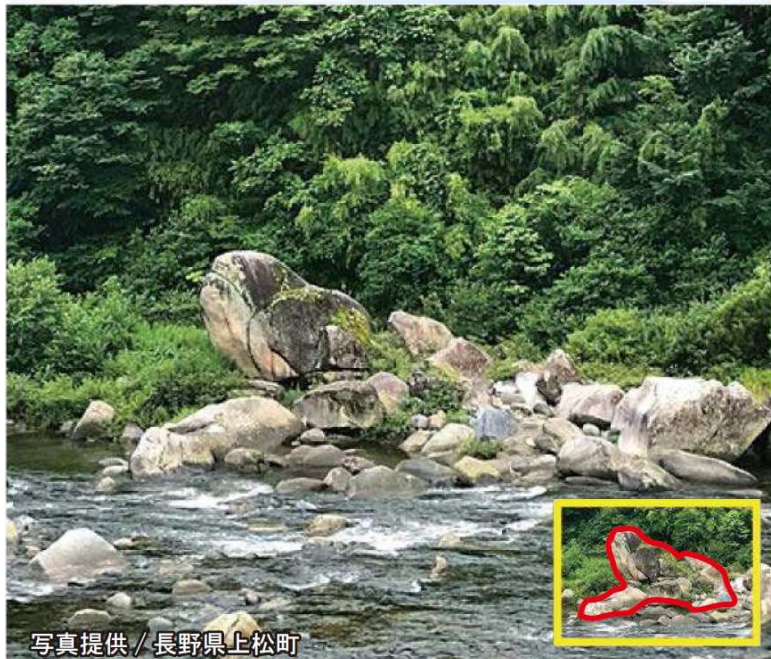
長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会

長野県建設部
砂防課紹介

過去の災害に
学ぶページ

長野県河川砂防
情報ステーション

長野県立
歴史館



蛙(かわず)岩 (上松町)

御嶽山で修行をすませた大蛇が竜に出世するためには、海に出る必要がありました。ところが上松まで来ると大きな蛙岩が邪魔をして通してくれませんでした。大蛇は、竜神をお願いし雨を降らせてもらい、この蛙岩の目に触れないように水の中に潜って、海に出るようになったという言い伝えがあります。蛙岩が隠れると、正島の平に堤防を越えて浸水するといわれ、昭和の初年の洪水時に、正島の平が一面に水没したことがありました。

県内の主な災害 (12月)

- 1995年 (平成 8年) 蒲原沢土石流災害 (小谷村)

写真提供 / 長野県上松町

長野県建設部砂防課・長野県立歴史館・長野県治水砂防協会

長野県建設部
砂防課紹介

過去の災害に
学ぶページ

長野県河川砂防
情報ステーション

長野県立
歴史館

